

霞ヶ浦の帆引き船 伝統の保存・継承



■ 本市出身の折本良平が帆引き船を発明したのは、明治13年(1880)、今から140年以上も前です。少人数での漁を可能とする帆引き船の登場は、霞ヶ浦の漁業史上、非常に画期的で、多くの漁業者の生活を向上させました。

■ 昭和40年代には、トロール漁法の普及により一時その姿を消しましたが、多くの人々の声により、昭和46年には観光帆引き船として復活を果たし、現在も人々の目を楽しませています。

■ 令和3年度には、帆引き船の保存活動が評価され、「サントリー地域文化賞」を受賞しました。また、継続して開催されてきた「霞ヶ浦帆引き船フォトコンテスト」(以下、「フォトコンテスト」)が20回を迎えるなど、記念すべき年となりました。

■ ここでは、帆引き船の保存活動を行う「霞ヶ浦帆引き船・帆引き網漁法保存会」の活動と、各種記念事業について紹介します。



帆引き船 ゆかりの碑



- ① ライトアップ操業
- ② 帆引き船発明者 折本良平の顕徳碑
- ③ 帆引き船発祥の地の石碑

サントリー地域文化賞を受賞 — 長年の保存活動が評価されました —

霞ヶ浦帆引き船・帆引き網漁法保存会

本市で帆引き船を操業しているのは、「霞ヶ浦帆引き船・帆引き網漁法保存会」(以下、「保存会」)です。保存会は、帆引き船に携わる人々が集い、平成26年に結成されて以来、継続して保存・継承活動に尽力しています。この活動が評価され、令和3年9月22日に、土浦市・行方市とともにサントリー地域文化賞を受賞しました。今年の10月14日には、感染症の影響で延期となっていた贈呈式が大阪府で開催され、受賞者が一堂に集いました。

保存会の活動 3部会の紹介	後継者育成部会	帆引き船の担い手を育成する部会。帆引き船を操業。
	記録広報部会	帆引き船や霞ヶ浦の風景をPRする部会。フォトコンテストや模型作り教室を開催。
	文化財保存・活用部会	帆引き船の調査・研究を行う部会。勉強会を開催、文献を収集。



- ① 帆引き船の帆桁の取り付け
- ② 操業の講習会
- ③ 模型作り教室
- ④ サントリー地域文化賞贈呈式
- ⑤ サントリー地域文化賞受賞記念の盾

歴史あるフォトコンテストが節目に — 帆引き船の魅力を伝え続ける —

フォトコンテストは、「帆引き船の勇壮な姿と霞ヶ浦の風景」をテーマとして平成13年から継続して開催され、令和3年度には記念すべき20回を迎えました。

今年の10月8日には、感染症の影響で延期されていた表彰式があじさい館で行われました。



- ① 最優秀賞/県知事賞 「凧と闘う」 宮本尚男さん
- ② 第20回フォトコンテスト上位入賞者(写真を持つ3人)
はつとち りよこ 初島千代子さん(左)、宮本尚男さん(中央)、林昭さん(右)
- ③ 地域文化賞副賞の賞金を活用して発行された記念写真集



霞ヶ浦帆引き船フォトコンテスト 20 回記念 パネルディスカッション —100 年後の操業を目指して—

フォトコンテストが 20 回の節目を迎えたことを記念し、10 月 10 日にあじさい館で「パネルディスカッション」が保存会主催で開催されました。第 1 部では、保存会の副会長による記念講演が、第 2 部では、観光帆引き船を操業する土浦市、行方市、かすみがうら市の 3 市の市長と、帆引き船の操業関係者を招いてのパネルディスカッションが開催されました。



主催者あいさつ
保存会会長 戸田廣さん



第 1 部

記念講演

保存会副会長の飯塚良哉さんが「帆引き船の発明がもたらしたもの」と題し講演。かつてご自身が行った、折本良平に関する資料の調査・研究についての話がありました。資料が少なく、顔写真を見つけれなかったことや言い伝えから想像される、良平の尊敬すべき人物像について、優しい口調で語っていました。

「帆引き船や帆引き船を取り巻く環境を総合的に伝えていくことは、生易しいことではないと思います」と話しながらも「霞ヶ浦に恩恵を受けてきた土浦市、行方市、そしてかすみがうら市が知恵を出し合い対処すれば、明るい 10 年後、100 年後が見えてくるのでは」と期待していました。



第 2 部

パネルディスカッション



第 2 部では、「100 年後の操業を目指して」と題し、帆引き船の操業に関するパネルディスカッションが行われました。

帆引き船に関する各市の取り組み、現場でのやりがいや苦勞、帆引き船の広報・PR、船や各種装備などの保安全管理、今後の展望など、充実した意見交換が行われました。

右のページでは、その内容の一部を紹介します。

質問

帆引き船の操業に携わる皆さんから、現場での苦勞や喜びなどをお聞かせください。

土浦市観光協会 浅川善信さん

覚えることが多く、操業回数も限られているため、後継者の育成には苦勞しています。年が近い先輩が後輩の指導にあたって、昔のような「見て学ぶ」方法から「優しく、丁寧に教える」方法にシフトしてきています。



国の選択無形民俗文化財となったことやサントリ地域文化賞の受賞などによって、特に若手や若い人を感じ、士気が向上しています。

麻生漁業協同組合 鬼澤弘明さん(行方市)



(生業としての) 帆引き船の最後の船乗りであった前組合長が今年 9 月に亡くなり、操業は手探りの状態です。現状、帆引き船の操業には若手が多いのですが、まだ「伝統の保存」と

いう意識は低いように感じています。

お客さんに帆引き船の美しい姿を楽しんでもらうことや、伝統を次世代に継承していくという活動に、とてもやりがいを感じています。

保存会 齋藤等さん(かすみがうら市)

風の強弱などに応じて、当日操業をできるか否かの判断や、操業時に各部の的確な調整判断をするのはとても難しく、苦勞しています。楽しみとして、風速 2、3 m の時に満帆で帆走すると、大変気分が良いものです。



年々、指導者や後継者が減少傾向です。ホームページなどで公募をしてみているのですが、なかなか応募がありません。この点が課題です。



後列左から：安藤市長、鈴木市長、宮嶋市長
前列左から：浅川さん、鬼澤さん、戸田さん、齋藤さん

質問

100 年後の操業に向けて、帆引き船の将来や将来像についてお聞かせください。

土浦市 安藤真理子市長



140 年前に編み出された漁法が、今も連綿と続いていることは、とても重要なことと考えています。漁法を編み出し、改良してきた先人の皆さんの苦勞はもとより、現在帆曳船の操業

に携わっている方々に対する深い感謝と敬意を感じています。船体や漁具の素材などの変化は、時代の流れとして仕方がないところですが、大切なことは帆引網漁の技術を絶やさないことです。そのためにも、技術保有者の皆さんと連携を密にし、また 3 市との連携をさらに強化して、「帆曳船ブランド」を構築していくことで、地域に明るい未来が見えてくると感じています。

行方市 鈴木周也市長

3 市で観光部署・観光協会や教育委員会の横の連携も視野に入れていくことを提案したいです。帆引き船の網を入れて船を横に滑らせるという漁法は世界的にも珍しく、歴史的に重要なものです。また、船体には地元産の木材が使用され、取れた魚は地元で水産加工品となります。地域のストーリーに深く関わっているのが帆引き船なのです。この「物語」を観光につなげていくことや子どもたちに伝えていくことも、大切なことと考えています。これからは、AI など新たな技術を取り入れながら、この技術を残す、または新しいものにしていく必要があると考えています。



かすみがうら市 宮嶋謙市長



保存会も連合会的なものを組織していただき、操業技術の連携についても、さらに 3 市で協力していければと考えています。帆引き船は、これまで 2 つの捉え方で保存・継承されてきました。1 つは歴史文化としての捉え方、もう 1 つは観光資源としての捉え方です。これらを軸に、多くの方が保存・継承活動に関わってきています。私は、ここにもう 1 つ「環境面」の軸を加えたいと考えています。自然と人との共生・調和の目指すべき姿として帆引き船を捉え、私たちが進んでいくべき社会の象徴として、国内、そして世界に向けてその魅力を発信していきたいと考えています。

伝統漁業の継承者

140年の歴史も背負い出航

保存会の活動の中で、帆引き船を後世に伝えていくための直接的な役割を担っているのが「後継者育成部会」です。勇壮かつ麗美な帆引き船は、部会員の皆さんの腕によって操業されています。

後継者育成部長に聞く 『帆引き船の操業』



齋藤等さん

齋藤さんは、父親が漁師で帆引き船に乗っていたため、自身も中学生の頃に漁を手伝っていたとのこと。

帆引き船の操業について「天候を読み、実施・中止の判断をするのが難しい」「一番の課題は後継者を増やすこと。今は教本や映像資料もあるので、学びやすい環境は整ってきている」「命がけの部分もあるが、満帆になった帆を見上げた時、その美しさに喜びを感じる」と語ってくれました。伝統漁法を受け継ぎ、多くの方が見学に訪れていることについての思いを尋ねると、「まあ、誇りに感じている部分もあるな」と、少し照れ臭そうに笑っていました。

待望の志願者 『期待と不安』



谷山隆一さん

今年の夏に入会したばかりの谷山隆一さん。銚田市桜本在住。新聞で帆引き船の継承者募集の記事を見て、「やってみよう！」と決意。入会に踏み切ったのだそうです。漁業の経験はなく「自分にできるのか」という不安もあると語ってくれました。

インタビュー時が初めての参加。まず随伴船に乗り、船になれるところからでした。随伴船から帆引き船を見た感想について、「力仕事で大変そうだった。とても綺麗だった」と話していました。

齋藤等さんも、「貴重な志願者。ぜひ頑張ってほしい」とエールを送っていました。



霞ヶ浦が育んだ宝物を次世代へ

発明から100年を超え、現在まで技術が受け継がれ操業されている帆引き船。この伝統漁法の保存・継承は、多くの方が携わり、心血を注ぐことで成し遂げられてきました。

「帆引き船発祥の地」にくらす私たちは、もう一度帆引き船の持つ多様な魅力について目を向ける必要があるのではないのでしょうか。それこそが、帆引き船を次の100年まで伝えていくための、第一歩となるのかもしれません。

伝統の 担い手も募集



保存会では、帆引き船の操業者を随時募集しています。

100年後の操業を実現させるため、一緒に帆引き船に乗りませんか。

少しでも興味をお持ちの方は、ぜひお気軽にご連絡ください。

保存会事務局

☎ 029-896-0017 (歴史博物館内)

国民健康保険の手続きを忘れずに！

就職や転職・退職、進学や卒業などがあつたとき、加入する健康保険が変わる場合があります。国民健康保険（国保）の加入・脱退の手続きは、自動では行われません。忘れずに市役所で手続きをお願いします。

国保に加入する手続きが遅れると…

- ・国保による医療費の負担がないため、医療機関での受診は、全額自己負担になります。
- ・加入日は、勤務先の健康保険などを脱退した日までさかのぼるので、その分の国民健康保険税が一度にまとめて課税されてしまいます。

国保を脱退する手続きが遅れると…

- ・すでに勤務先の健康保険などに入っているのに国保を使ってしまうと、国保が負担した医療費を返すことになります。
- ・国民健康保険税と勤務先の健康保険料を同時に支払ってしまうことになります。

国保の加入・脱退手続きの必要書類など▶



マイナンバーカードは健康保険証としても利用できます

マイナンバーカードをお持ちの方は、健康保険証利用の申し込みを済ませると、「マイナ受付」のステッカー・ポスターがある医療機関で、マイナンバーカードを健康保険証として利用できます。



マイナンバーカードで受診すると、マイナポータルから特定健診結果や薬剤情報を確認できるため、より良い医療を受けることができます。

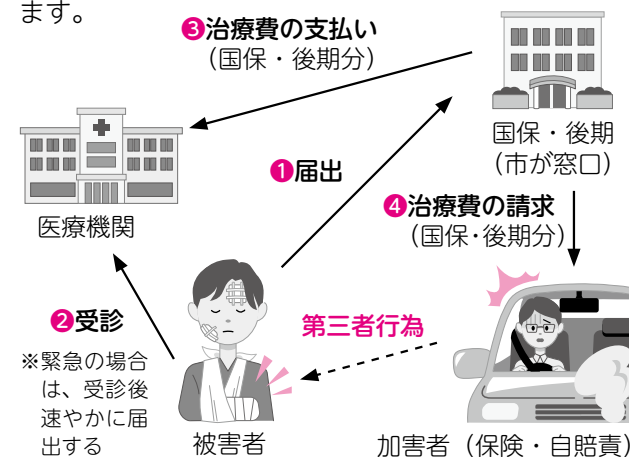
【注意】

マイナンバーカードが利用できる医療機関は増えていますが、対応していない医療機関では従来通り健康保険証が必要です。健康保険証もお持ちください。



交通事故などの 第三者行為にあったときは

交通事故など第三者（加害者）から受けただけの治療費は、過失割合に応じて加害者が負担するものです。国民健康保険（国保）や後期高齢者医療保険（後期）を使って治療を受ける場合は、下図のように国保・後期から加害者へ治療費を請求することになります。



もし、加害者が負担するはずの治療費を国保や後期で負担すると、皆さんが普段使っている医療財源を圧迫してしまいます。国保や後期に加入している方は、第三者行為によるけがで受診し保険証を使用する（した場合、速やかに国保年金課へ届出をお願いします。

【注意】

- 加害者との間で示談を済ませてしまった場合は、保険証は使えません。
- 学校の管理下におけるけが（登下校を含む）の場合は、学校で加入する「日本スポーツ振興センター災害共済給付制度」が優先されます。

届出方法など▶



(国保)



(後期)

◎各手続きの詳細は、お問い合わせいただくか、ホームページをご覧ください。

☒ 国保年金課（千代田庁舎）